「Dell KACE VK1000」を活用し700台のPCの資産管理を実現

Dellの仮想システム管理アプライアンスを導入し、詳細なクライアントPCの資産管理からセキュリティパッチの配信まで、即座に可能な環境を構築。仮想アプライアンスの選択により、迅速かつ容易な導入も実現

「Dellには引き続き、私たちの業務効率と生産性を向上させる提案と、運用面での疑問にすぐに答えてくれるサポート、そして、競争力のある製品をこれからも私たちに提供し続けてほしいと考えています」

株式会社ホンダエレシス
管理室 室長
島田欽也氏

カスタマー・プロファイル

株式会社 ホンダエレシス

企業名	株式会社ホンダエレシス
業　種	車体系の自動車電子制御ユニットの開発・製造・販売
本社所在地	神奈川県横浜市
社員数	405名
URL	www.elesys.co.jp/

課題

- クライアントPCの資産管理を手作業で行っていたため、情報の更新にあたって差異が生じるなど厳密な管理が困難な状況にあった
- コンプライアンスの観点からもソフトウェアのライセンス管理の徹底が求められていた

ソリューション

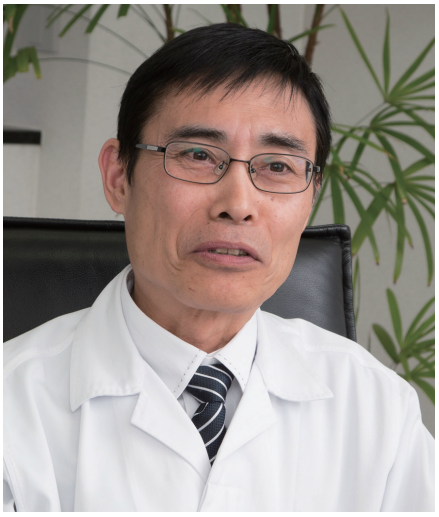
- 仮想化に対応したソフトウェア型システム管理アプライアンスの「Dell KACE VK1000」を導入

導入効果

- Dell KACE VK1000の活用により、クライアントPCの資産管理を一元化
- セキュリティパッチやアプリケーションの更新ファイルの自動配信が可能な環境を実現

ソリューションエリア

- クライアントPC管理



「近年、グループ会社全体を通じ、セキュリティに対してより厳しい要求が掲げられるようになっています。新製品に関する機密情報の漏えいに対する防御など、セキュリティ対策の強化は、ホンダエレシスのITインフラにおいても大きな1つのテーマとなっています」

株式会社ホンダエレシス
管理室 室長
島田欽也氏

車体系の自動車電子制御ユニットの開発・製造・販売を手掛ける株式会社ホンダエレシス（以下、ホンダエレシス）。社内セキュリティのさらなる強化が求められる中でも、クライアントPCの資産管理とパッチファイルの適切な更新を可能とする環境の構築が急務となっていた。そこで、同社では、仮想システム管理アプライアンス「Dell KACE VK1000」を導入。これまで人手によって行われていた資産管理の自動化を実現するとともに、効率的なセキュリティパッチの配信が可能な環境を整備することができた。

約800台のクライアントPCの正確な資産管理が早急の課題に

急ブレーキ時にも安全を保つためのアンチロックブレーキシステム、確実なハンドル操作とエンジン負荷を抑制するエレクトリックパワーステアリング、さらには前方車との安全な距離を図るためのミリ波レーダーユニットや追突軽減ブレーキなど、車体系の自動車電子制御ユニットの開発・製造・販売を手掛けるホンダエレシス。2002年10月の創業以来、「期待され誇れる会社に」を経営方針に掲げ、コアとなる技術や商品の継続的拡大に注力すると同時に、新技術・新商品への取組みも積極的に展開。常に一歩先を行くエレクトロニクス技術の追求により、クルマが持つ「走行基本性能（走る・曲がる・止まる）」、「安全性」、「快適性」の向上を探究してきた。例えば、安全性のさらなる追究にあたり、レーダーや画像認識といったセンシングテクノロジーを駆使した事故の予防システムなど新技術も次々に実用化するなど、海外からも同社に対して熱い視線が注がれている。

そうしたホンダエレシスでは、業務におけるIT化も積極的に推進してきた。中でも近年、課題として挙げられていたのが、セキュリティ強化である。ホンダエレシス 管理室 室長の島田欽也氏は、「2002年の会社設立以来、業務の効率化や生産性の向上を目指し、積極的にIT化への取り組みを行ってきました。そうしたシステムが安定稼働を続けている一方、近年、ホンダをはじめとするグループ会社全体を通じ、セキュリティに対してより厳しい要求が掲げられるようになっています。新製品に関する機密情報の漏えいに対する防御をはじめ、セキュリティ対策の強化は、ホンダエレシスのITインフラにおいても大きな1つのテーマとなっています」と話す。

その1つが、クライアントPCに関するセキュリティの強化である。管理室 情報システムブロック 主任の阿部秀史氏は、「これまでもアンチウイルスなどでクライアントPCのセキュリティ対策を行ってきましたが、昨今ではゼロディ攻撃に代表されるようなアンチウイルスパターンをすり抜ける攻撃やAdobeのアプリケーションを対象とした攻撃も増えてきています。そうしたことから、適切なタイミングでのセキュリティパッチの適用などの対策も不可欠となっていました。しかし、パッチ適用を適切に行っていくあたり、社内に散在している約800台に上る各クライアントPCの最新の状態が把握できない、という課題があったのです」と振り返る。

また、管理室 情報システムブロック 主任の八木みどり氏も、これまで同社が行ってきたクライアントPCの資産管理について、次のような課題が挙げられていたと説明する。

「これまでは、グループウェアのデータベースで独自に作成した管理台帳を使用してクライアントPCの資産管理を行っていました。具体的には、新しくPCを導入するたびに所有者名や機種、OSのバージョン、インストールされたアプリケーションなどの情報を登録していました。しかし、パッチの適用状況といった最新情報への更新も現場からの報告に基づき手作業で行っていたため、人手による作業ではどうしても更新漏れなどが発生してしまいます。そうしたことから、既存PCの正確な状況が把握できないという課題が挙げられていたのです」

さらに八木氏は、「このような運用を行っていたところ、2010年にアプリケーションベンダーからソフトウェアの利用について監査依頼があり、社内のアプリケーションのインストール状況の調査が必要となりました。しかし、先に述べたように既存のクライアントPCの正確な情報が把握しきれていなかったことから、クライアントPCのインベントリの収集をやり直さなければならなかったのです」と話す。監査にあたっては各部門に協力を依頼。現場での棚卸や、調査の過程で見つかった不明なクライアントPCの情報の追求など、管理台帳のアップデートに数か月を要したと、八木氏は当時の苦労を振り返る。

「800台にもおよぶクライアントPCの資産管理を、手作業で行うことは限界に達していました。監査時の迅速な対応だけでなく、クライアントPCの現状把握によるセキュリティ強化を図っていくためにも、システム管理ツールの導入が不可欠と実感したのです」（八木氏）

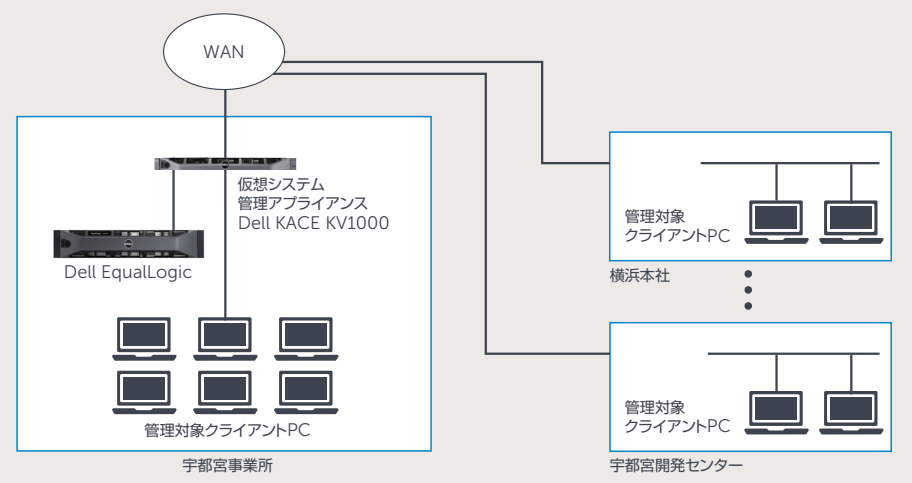
導入システム

ソフトウェア

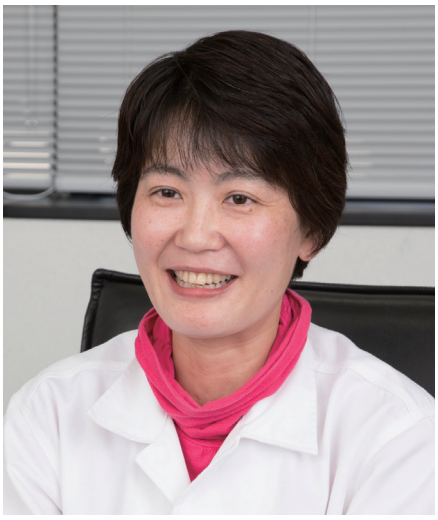
Dell KACE VK1000仮想アプライアンス

サービス

Dell プロサポート



システム構成図



「Dell KACE VK1000を導入することで、資産管理は完全に一元化され、クライアントPCの最新情報がすぐに把握できるようになりました。インベントリの収集スピードも速く、即座に情報が反映され、とても重宝しています」

株式会社ホンダエレシス
管理室
情報システムブロック
主任
八木みどり氏

必要な機能を搭載しつつ
コストパフォーマンスに優れた
Dell KACE VK1000を採用

このような課題を解決するため、2012年よりホンダエレシスでは、本格的にシステム管理ツール導入の検討を開始することとなる。そして、同社がシステム管理ツールに求めた要件が「インベントリの自動収集」、そして「脆弱性管理のためのパッチの自動配信」だった。

クラウドによる管理サービスから、市場で多くの実績を有する著名なシステム管理ツールなども調査、検討していく中で、先に掲げた要件満たすソリューションとして、ホンダエレシスの目にとまったのが、「Dell KACE VK1000仮想アプライアンス」である。

Dell KACE VK1000はDellのシステム管理アプライアンス「Dell KACE K1000」を仮想化ソフトウェアとして提供するもの。VMware環境に最適化されており、従来の物理アプライアンスの機能性に加え、迅速な展開や容易な運用管理といった仮想化ならではのメリットを享受できるのが特徴だ。

機能についても、「デバイス検出とインベントリ」「パッチ管理」をはじめ、「資産管理」「電源管理」「ソフトウェア配布」「リモートコントロール」など、多彩なシステム管理機能を1つのプラットフォームに統合。煩雑なIT管理業務に関する負荷を大幅に軽減することができる。

Dellの紹介でDell KACE VK1000の存在を知った阿部氏は、そのデモンストレーションを見てすぐさま提案を依頼したという。Dell KACE VK1000に関心を抱いた理由について、阿部氏は次のように説明する。

「さまざまなシステム管理ソリューション、製品を調査しましたが、OSだけでなくアプリも含めたセキュリティパッチを配信可能な製品は、Dell KACE VK1000だけでした。また、他のソリューションと比較してコストパフォーマンスも優れていました。例えば、他社のシステム管理ツールは多機能性である反面、導入や運用に多大なコストが発生するケースが少なくありません。対してDell KACEシリーズはシステム管理、デプロイメント、モバイル管理とラインナップが個別に用意されており、必要な機能を要望に応じて揃えられます。すなわち、必要なものをコストを抑制しながら順次導入することが可能だったことも評価のポイントとなりました」

実際、Dell KACE VK1000のコストパフォーマンスは、比較したクラウドサービスを超えるものだった。八木氏も、「社内に資産を抱えたくなかったこともあり、当初はクラウドサービスによるシステム管理ソリューションの導入を検討していました。しかし、Dell KACE VK1000は、必要とする機能が十分に備わっていたことに加え、クラウドサービスと比較して1年間で3分の2程度、5年で計算した場合、約4分の1のコストで導入、運用できるなど費用面でも大きな優位性を持っていました」と話す。

これらのメリットを考慮した結果、2013年9月、ホンダエレシスはDell KACE VK1000の採用を決定。2013年10月より、本格的な導入作業を開始する。

仮想サーバ環境での容易な導入
稼働開始までわずか半日で完了

2009年からVMwareによる仮想サーバ環境を運用してきたホンダエレシスにとって、VMwareに最適化されたDell KACE VK1000の導入は非常に容易だったという。

「はじめに試用版をダウンロードして社内の仮想サーバ環境に展開したのですが、設定も仮想アプライアンスにIPアドレスを割り当てるだけですぐに使えるなど、ほとんど苦労することがありませんでした。通常のシステム管理ツールの導入では、ハードウェアの調達も含め少なくとも一か月はかかります。しかし、Dell KACE VK1000はわずか半日程度で済み、こんなにも速くシステムを展開できたことは初めてでした。また、試用版からフルバージョンへの移行についても、ライセンスキーを入力するだけで簡単に行えました」（阿部氏）

約700台のクライアントPCの
インベントリ情報を即座に収集

今回、横浜本社、宇都宮事業所、宇都宮開発セン

ターの3拠点、約800台のクライアントPCのうち、まずはオンラインに接続されていると予想される700台を対象としたシステム管理基盤の運用が新たに開始されたが、Dell KACE VK1000は仮想サーバ上で安定稼働を続けているという。

実機能についても、十分に満足しているようだ。八木氏は、「クラウドサービスでは必要な情報を入手しようとしても、提供されている機能では参照できないものもあり、都度、問い合わせなどを行わなければなりませんでした。対してDell KACE VK1000は、個々のクライアントPCのリアルな稼働状況をインベントリとして収集するため、使用しているOSの種類やバージョン、さらにはインストールしているアプリケーションまで、すべてリストにして可視化することができ、とても重宝しています」と話す。

そして、Dell KACE VK1000の導入によって、すでに多くのメリットを享受できているという。その1つが、当初より掲げていた「正確かつ迅速なクライアントPCの資産管理」の実現だ。

八木氏は、「Dell KACE VK1000を導入することで、資産管理は完全に一元化され、クライアントPCの機種やユーザ名、OSや利用アプリケーションなどの最新情報が即座に把握できるようになりました。資産管理台帳作成の元データとなる、インベントリの収集スピードも速く、すぐに情報が反映されます。また、インベントリ情報の活用についても、Microsoft Excelにエクスポートして加工できるなど、とても簡単に行えています」と評価する。

各クライアントにインストールされるKACEエージェントは、個々のクライアントPCのリアルな稼働状況をインベントリとして収集するため、使用しているOSの種類やバージョンレベルからアプリケーションまで、すべてリストにして可視化することが可能となる。これにより、厳格なライセンス管理も実現できるようになる。

さらに、ホンダエレシスではOSのセキュリティパッチだけでなく、Adobe ReaderやJava Runtime Environmentのアップデートについても、Dell KACE VK1000を用いた自動配信を行っていくことを検討しているが、「例えば、クエリを用いて、『あるアプリケーションをインストールしているクライアントPCを抽出する』『最新のセキュリティパッチが適用されていないPCを表示させる』といったこともDell KACE VK1000なら容易に行えます。これにより、パッチが適用されていないクライアントPCがどこに何台あるのかすぐに把握できるようになります。今後、パッチの自動配信を行っていくことを検討していますが、一斉配信するとネットワークに負荷がかかり、業務に影響を与えかねません。そうした事態を回避するためにも、拠点や部門ごとに個別にパッチ配信を行うようスケジュール化することが必要ですが、その計画策定のためにもDell KACE VK1000は有効です」(八木氏)という。

加えて不正なPCや許可されていないアプリケーションの利用についても、即座に見つけ出すことができるようになったことも、当初想定していなかった導入効果として挙げられるという。「これまでは、問題のあるアプリケーションが世に広がった場合でも、ユーザに注意喚起をすることしかできませんでした。対して、Dell KACE VK1000を導入したことで、実際に問題のあるアプリケーションをインストールしていたユーザを見つけだし、直接、連絡して削除してもらうことも可能となりました」と、八木氏は評価する。

今後のシステム管理の強化策について阿部氏は、「現在、神奈川、および栃木の2か所の合計3拠点におけるクライアントPCを情報システムブロック5名の体制で管理していますが、トラブル対応などには電話やリモートアシスタンスなどで対処してきました。今後、Dell KACE VK1000のリモートコントロールを活用することで、運用管理にまつわるさらなる工数削減を進められると期待しています。また、Dell KACE VK2000によるPCイメージ配信なども検討しており、さらなる運用管理工数の削減につなげていけると考えています」と話す。

Dell KACE VK1000の導入により、クライアントPCの資産管理に関する負荷を抑制し、ひいてはセキュリティのさらなる強化に向けた基盤を整備したホンダエレシス。これからも安全で利便性の高いIT活用環境の実現に向けて、さまざまな取組みを進めていく構えだ。そうした中で、今回のプロジェクトを振り返りつつ、島田氏は次のようにDellに期待を述べる。

「Dellには引き続き、私たちの業務効率と生産性を向上させる提案と、運用面での疑問にすぐに答えてくれるサポートを期待しています。そして、競争力のある製品もこれからも私たちに提供し続けてほしいと考えています」

「通常のシステム管理ツールの導入では、ハードウェアの調達も含め少なくとも一か月はかかります。しかし、Dell KACE VK1000は、簡単に仮想化環境に展開できるうえ、設定も設定も仮想アプライアンスにIPアドレスを割り当てるだけで、ほとんど苦労することがなく、わずか半日程度で導入を済ませることができました」

株式会社ホンダエレシス
管理室
情報システムブロック
主任
阿部秀史氏

ユーザ導入事例ウェブサイトにて、他にも多くの事例をご覧いただけます。
www.dell.co.jp/casestudy

February 2014. ©Dell inc.
●KACE、Dell ロゴは、米国Dell Inc. の商標または登録商標です。
●その他の社名及び製品名は各社の商標または登録商標です。●取材 2014年1月 1101397
デル株式会社 〒212-8589 川崎市幸区堀川町580番地 ソリッドスクエア東館20F
Tel. 044-542-4047 www.dell.co.jp